

第24回中四国サミット議事録

日時：平成26年9月3日（水）14:00～15:35

場所：徳島グランヴィリオホテル「サファイア」

○司会（妹尾徳島県政策創造部長）

本日は、お忙しいところお集まり頂きまして、まことにありがとうございます。ただいまから、第24回中四国サミットを開催致します。私は本日、司会を務めさせて頂き、徳島県政策創造部長の妹尾でございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。まずはじめに、開催県であります徳島県の飯泉知事からご挨拶を申し上げます。

○飯泉徳島県知事

第24回中四国サミットを徳島で開催させて頂きましたところ、中四国各県の知事様方、また、中経連の山下会長さん、そして四経連の常盤会長さん、ようこそ徳島にお越し頂きました。心から歓迎申し上げたいと存じます。

また、この日曜日には浜田知事さんには再選をされ、本当におめでとうございました。心からお慶び申し上げたいと思います。

また、この度の集中豪雨によりまして、未曾有の被害を被っておられます広島県の皆様方、心から亡くなられた皆様方にお悔やみと、そして広島県はもとよりであります、8月豪雨災害で被災を受けられた皆様方に、心からお見舞いを申し上げたいと思います。本当に大変でございます、ご苦労さまでございます。

さて、徳島での中四国サミットの開催は、実は11年ぶりであります。平成15年に開催させて頂きました。当時、私も知事になりたてということで、そうやって見ますと顔ぶれが、本当に変わられたなど、時がたつのが速いのを実感させられるところであります。

そうした中、国におきましては、ちょうど今日が組閣ということになっておりまして、改造安部内閣、新しく船出となったところでありますが、ちょうどその日に、中四国サミットが開かれる、これもひとつの奇縁ではないのかな、このように思うところでもあります。

といいますのも、実は皆様方にご協力を頂きまして、あの高すぎる本四高速の料金が、今年の4月から全国共通料金の仲間入りをする。また、ちょうど今年は、あの瀬戸内海が日本で最初に国立公園に指定をされて、ちょうど80周年を迎えることとなりました。またそうなると、空海さん、弘法大師も応援してくれるということで、四国霊場八十八箇所は開創1200年となるところであり、まさに中国、四国においてはエポックメイクの年となっているところであります。

こうした中、日本全体をすこし見てみますと、つい先般であります、日本創成会議から40歳未満の女性の皆さん、特に20代、30代の女性の皆さん方の2040年における人口推計が出されました。

全国の市区町村の約半分が消滅してしまうのではないかと、こうした危惧が出され、そして今では、日本全体で人口減少問題に、まさに正面から取り組まなければいけない。我々

全国知事会におきましても、非常事態宣言を先の佐賀県での全国知事会議で取りまとめさせて頂いたところであります。ようやく国が人口減少問題に正面から取り組む。

また、地方重視ということで、今月には「まち・ひと・しごと創生本部」がいよいよ立ち上げになる。先般、決められました平成 27 年度の概算要求基準におきましても、地方活性化、人口減少対策に 4 兆円の特別枠を設ける。いわば我々地方にとっては、大きなピンチであるわけでありましたが、ここが逆にいうと大きなチャンスになりうる可能性もある。

特に人口減少問題につきましては、中国、四国は限界集落、この概念が打ち出された時に、1 番比率が高かったのが四国、2 番目に高かったのが中国ということでありまして、中四国にとってみますと、この人口減少問題は長らく取り組んできた課題だけに、今こそ中四国のこれまでの取り組みと、そしてこれまで対策を行ってきた知恵を活かし、日本のこの人口減少問題を解決する処方箋を打ち出す、大きな、逆にいうとチャンスに恵まれたのではないかと、このようにも思うところであります。

今回の中四国サミットが、まさに日本のこれからの大きな方向性を打ち出す、大変意義あるものとなりますように、是非、大所高所からのご提案ご提言を賜りますよう、心からお願い申し上げます。まず開会にあたりましての歓迎のご挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願い申し上げます。

○司会（妹尾徳島県政策創造部長）

ありがとうございました。本日ご出席の山口県、村岡知事様におかれましては、本年 2 月にご就任され、当サミットに初めてご出席を頂いておりますので、ご挨拶を頂戴頂ければと思います。どうぞ、よろしくお願い致します。

○村岡山口県知事

こんにちは。この度初めて参加させていただきます、山口県知事の村岡嗣政と申します。今、飯泉知事からもお話がありましたとおりですね、山口県、非常に人口減少が厳しい中で、県内各地でもなんとかこの人口減少、そして若者の流出をなんとかしなければいけないと大変強い思いが溢れております。しっかりと、今日場でいい議論をさせて頂きながら、山口県がさらに活性化するように全力で頑張っていきたいと思っております。どうぞ、よろしくお願い致します。

○司会（妹尾徳島県政策創造部長）

ありがとうございました。本来ですと本日ご出席の皆様方をご紹介すべきところではございますが、時間も限られておりますので申し訳ございませんが、お手元の出席者名簿によりましてご紹介に代えさせて頂きたいと思っております。

次に議長の選出でございまして、当サミットの議長は慣例によりまして、開催県の知事が務めることとなっておりますので、飯泉知事が会議の進行を務めることと致したいと存じますが、よろしいでしょうか。

（「異議なし」の声）

○司会（妹尾徳島県政策創造部長）

ありがとうございます。それでは飯泉知事よろしくお願い致します。

○議長（飯泉徳島県知事）

それでは、早速ですが議事に入らせて頂きます。皆様方円滑な議事進行にご協力方、どうぞよろしくお願い致します。本日の予定を少し申し上げたいと存じます。本日は午後 3 時 40 分までにこの場における、出来れば議論を終えさせて頂きまして、その後に共同記者会見を行い、午後 4 時には終了とさせて頂ければと思いますので、どうぞよろしくお願い致します。

それでは、まず、テーマ 1、防災減災対策の強化についてであります。去る 8 月 20 日未明、広島県におきまして、大規模な土砂災害が発生し、多くの尊い命が失われることとなりました。さらに 8 月の月上旬から中旬にかけては、本県や山口県そして高知県など、まさに中四国地域では台風に伴う豪雨に見舞われ、大きな被害が発生したところがあります。このため中四国サミットといたしまして、急遽、平成 26 年 8 月豪雨災害に関する支援等についてアピール文を作成することと致したいと存じます。そこで私からまず、アピールの趣旨あるいは概要につきまして、ご説明申し上げたいと存じますので、アピール文、よろしければご覧を頂ければと思います。

まず、中四国では、台風 12 号そして 11 号、さらには 8 月 19 日からの豪雨によりまして、観測史上まれにみる大雨に繰り返し見舞われたということ。この豪雨によりまして広島県、山口県、徳島県そして高知県を中心に死傷者の発生、建物の損壊・浸水、道路・河川などの公共施設の被災など、甚大な被害をもたらしたこと。災害復旧制度を適用致しまして、災害復旧事業の迅速な推進や事前防災・減災対策の充実を図り、しなやかで復元力の強い国土と安全安心な地域を作り上げていく必要が今まさにあるということ。

このため、政府に対し、激甚災害への指定、災害復旧事業や災害関連事業の早期採択、特に災害査定の迅速化、簡素化、災害救助法の適用拡大と支援内容の充実などを求める内容とさせて頂いております。

また、事前防災・減災対策に対する充実といたしまして、道路、河川などの防災・減災対策に対する予算の増額、土砂災害警戒区域などの指定の推進などを、あわせて求めるものであります。それではこのアピールにつきまして、特に今回被害の大きかった広島県を代表して頂きまして中下副知事さんからご発言頂きたいと思っております。

○中下広島県副知事

はじめに今回の豪雨災害に対しまして、多大なご支援を頂きましたことについてこの場をお借り致しまして、お礼を申し上げます。本当にありがとうございました。

本県におきましては、とりわけ 3 点について申し上げたいと思っております。1 点目は災害復旧事業等の関係でございます。災害によりまして被害を受けた施設の速やかな復旧はもちろんのことではございますけれども、再度災害の防止に向け砂防施設などの災害関連事業の早期実施も重要となることから、これらについても早期採択等を要望したいということでございます。

2点目におきましては、災害救助法の関係でございます。今回の災害において、避難所における心身のケアにおきまして5つの対応を致しました。1つは医療救護班、2つ目はこども支援チーム、3つ目が精神医療分野のDPAT、これは今回、初めてでございます。4つ目がリハビリテーション、5つ目が口腔ケアの分野で活動致しました。DPAT、こども支援、リハビリテーションに関しましては、財政支援の対象となっておりますので、ぜひともこれを対象にして頂きたいということでございます。

3点目は、土砂災害警戒区域等の関係でございます。今回の災害をふまえて、警戒区域の指定推進に加えまして、住民自身が住居の危険度の確認や危険度を察知した場合に、適切な行動をとることができるよう、ハザードマップ等の活用や防災訓練などを通じて、防災意識を高めるなどソフト施策の充実も必要でございます。これらの取り組みが有効に行える仕組みを構築するとともに、これに要する費用の助成や基準財政需要額への参入などの支援も要望したい。以上3点でございます。

○議長（飯泉徳島県知事）

どうもありがとうございました。

どれも今回の緊急アピールの主軸をなすものとなっております。それでは皆様方からもご意見を賜りたいと思います。いかがでしょうか。

よろしゅうございますか。はい、それでは皆様方にお諮り致したいと存じます。この急遽、提案させて頂きましたアピール文につきましては、原案どおり承認といたしてよろしゅうございますか。

（「異議なし」の声）

ありがとうございました。

それでは今、広島県からお話がありましたように、なるべく早く対応を求める必要がございますので、近日中に、上京させて頂きまして、本アピールについて政府にしっかりと提案して参りたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げたいと存じます。

はい、どうぞ、平井知事さん。

○平井鳥取県知事

今のこのアピール文については、全面的に賛成をさせて頂いております。今日は常盤会長、山下会長にもお越し頂き、この中四国サミットが徳島で開かれていること、飯泉知事にも感謝を申し上げたいと思いますし、浜田知事にもご当選のお祝いを申し上げたいと思います。

そのアピール文を説明する際に留意して頂きたいと思いますのは、このアピール文の最後のところにですね、今後の観測の問題がございます。これについては、XバンドMPレーダという高精細な観測資材を投入すると。国交省の方で方針が出されたところでありま

すけれども、ただ残念ながら、四国の大半と山陰はその対象から外れている状況になっておりまして、やはり災害、この度の集中豪雨のような災害が起こることを考えますと、精細なメッシュでの観測態勢を国が作るように、ぜひ強くその辺をアピールの趣旨として述べて頂ければありがたいなと思います。

また、今回の集中豪雨で広島で災害が起きた、そのひとつの教訓としては、早めにやはり情報を整理して、早い段階で住民の皆さんが逃げられるような、そういう体制をとるべきではなかったかということでもあります。現在の予報のシステムとしては、アメダス等によりまして、6時間後までの予報を出すというところではありますが、もっと半日前とかそうしたタイミングで出来ないものかどうか。また国の方でもバックビルディング現象が起きる、そういう最近の集中豪雨型の災害に対して、入道雲の発生状況の予測システムを高めるべきという政府内での議論も始まっているということも聞いております。趣旨をよくご説明頂きましてアピール行動して頂ければと思います。

○議長（飯泉徳島県知事）

どうもありがとうございました。

まさにタイムリーなお話を頂いたところでありまして、国交省の関係となりますので、その点については、しっかりと国交省にも申し伝えたいと考えております。

それでは、せっかくでありますので、このアピール以外の防災・減災対策の強化について、ご意見を頂きたいと思っております。今、ちょうど平井知事さんからもご発言頂いたところでありますが、鳥取県からは中四国における大規模災害に備えた官民の連携、そして、高知県からは国土強靱化地域計画の策定・推進についてのご提案がエントリーされておりますので、まず平井知事さんからお願いしたいと存じます。

○平井鳥取県知事

度々失礼致しました。この度の徳島での豪雨災害、8月にございましてお見舞いを申し上げたいと思っておりますが、その際、かねて中四国でカウンターパートで助けようではないかと、グルーピングをし、それに基づき鳥取県の方で今回支援をさせて頂いたわけでございます。

徳島県とは、平成23年に大幅にバージョンアップしました連携協定を結んでおりますが、それをさらに、社協、県の社会福祉協議会、また生活協同組合、さらに商工団体の中央会、中小企業団体中央会の方であるとか、また市長会、町村会、そういったレベルまでそれぞれの協定を結ぶようにさせて頂いておりまして、ボランティアの救援隊もこの度の災害で初めてこの協定に基づいて徳島へ向かうこととなりました。このようなきめの細かいカウンターパート制度をみんなで率先してやってみたらどうかと考えております。

○議長（飯泉徳島県知事）

どうもありがとうございました。ただいまのカウンターパートの話、さらに加えますとカウンターパートを結んで以来、鳥取県と徳島県では、お互いに防災関係職員を常駐で交換させて頂いておりまして、各部隊が入ってくる時には、そうした皆さん方が知り、顔の見える関係という形で、今回も大変ご支援を頂いたところであります。改めてありがとう

ございました。

それでは、尾崎知事さんよろしくお願い致します。

○尾崎高知県知事

今、平井知事が言われました、民民連携というのは非常に重要だと思います。ぜひ高知でも進めさせて頂きたいと思います。

先ほどの豪雨災害で、本県に対しましても、様々なお見舞いを頂きますとか、温かいお言葉をかけて頂きますとか、色々ご心配を頂きまして、心からお礼申し上げたいと思います。

国土強靱化地域計画の策定・推進に関して、お話をさせて頂きたいと思います。国土強靱化基本法、さらには南海トラフ地震対策特別措置法、これら一連の法律が出来上がってきて、徐々に国におきましても国全体としての防災計画の強化が図られてきております。

その中において、各地方に対しても国土強靱化地域計画の策定が求められてきている状況にあるわけがございます。こちらの地域計画作り、やはり地方として率先して取り組んでいき、やるべきことをしっかりやり、そしてあわせて国に対して主張すべきを主張するというところでやっていくことが大事かと思えます。

ぜひとも、この地域計画策定に本県としても熱心に取り組んで参りたいとそうように考えておるところです。そういう中で、この地域計画の策定にあたって非常に意義深いことはおそらくこういうことではないかと思われることがあります。といいますのは、地域計画の策定をすると、単県で出来ることと、出来ないこと、おそらくこれが非常にクリアになってくるだろうと思えます。そして単県で出来ないことの中に、国に協力を求めなければならないこと、近隣県で協力をしていかなければならないこと、さらにいえばこの中四国レベルで協力していかなければならないことが、それぞれの県で見えてくることになるだろう、と思っておるところであります。

国土強靱化地域計画を作っていく過程で協力しましょうという事項を出し合って、お互いで協力体制を作っていく。そしてまた国に対して、もっと訴えていくことについては、共同で国に訴えていく。そういうことが非常に重要ではないのかと思えます。これを作っていく過程でぜひともこの中四国の各県そして政財界の皆さま方とも連携させて頂きながらの取り組みをして頂きたいと思えますので、またよろしくお願い申し上げます。

○議長（飯泉徳島県知事）

はい、ありがとうございます。

それではお二人の知事さんから出されましたこのテーマにつきまして、皆さん方からも意見を頂ければと思います。いかがでしょうか。

はい、山下会長さんお願い致します。

○山下中国経済連合会会長

平井知事の方からでた最初の話について、ちょっと補足といいますか、私どもの考えを述べさせて頂きたいと思えます。この度の豪雨に関しまして、26年8月豪雨という言い方をされておりますが、近年中国地方にはこれに似た豪雨というのが多発をいたしており

ます。今では台風というのは予測可能だし、それから地震というのは予測可能でないけども、予兆もないけども大規模だと。この度の豪雨は、局所集中、被害甚大というような、我々が今まで積み重ねてきた、知見に基づく防災対策、情報収集とは少し違ってるところに、起こってきている気が致します。中国経済連合会としても、地方整備局と色々交渉、色々なことをやってきておるんですが、その中でですね、こういう災害に対する色々な情報収集から復興、あるいはボランティアのあり方、防災・減災対策をはじめ課題をですね抽出をして提言をしていきたいというふうに思っておりますので、よろしくお願い致します。

○議長（飯泉徳島県知事）

はい、ありがとうございます。

確かに仰るように、昨年も山口県で大きな豪雨があり、この時も鳥取県と徳島県はカウンターパートでしたので、山口県を両方で応援をするということもさせて頂きましたし、昨今では確かに予測以外の大変厳しい集中豪雨がありますので、今仰った点については、大変重要なことだと思います。

ほか、いかがでしょうか。常盤会長さん。

○常盤四国経済連合会会長

カウンターパートの組み合わせについて、今は、香川県と岡山県、愛媛県と広島県がカウンターパートになっており、同じ事象で両方に被害がある場合も想定されます。

状況に応じた体制が中四国で随時取れるようにしておけば、より効果的な応援ができると思います。

○議長（飯泉徳島県知事）

はい。大変、有意な貴重な提案がございましたが、知事さん方でいかがでしょうか。

はい、平井知事さん。

○平井鳥取県知事

実は、中国地方では、この度中国地方知事会の方で、防災での広域応援をやるということでも今回も広島に対して色々アプローチをさせて頂いたところでもあります。

ですからいざという時は、その災害の状況によりまして、そういう広域応援のスキームを中国地方で考えているところでもあります。あと、もともと消防のシステムの中では、ぐるぐるまわすような応援の順位がついていまして、例えば岡山が被災すれば広島、広島が被災するときには山口、わたしどもは島根に応援に行くとかですね、そういう別の順位もついています。そのへんを臨機応変にやっていく体制が必要であります。

カウンターパートはすぐにでも動けるように、お互いを普段から熟知しておいて、例えばヘリコプター飛ばすにしても、地形がわからないとすぐに救助活動はできませんから、普段から例えば我々、徳島県と24年度、25年度と共同訓練をやっていきます。そういうことで普段仲良くしているパートナーを作っておくこととあわせて、中国地方でいえば、5県の連携を一元的にやって、支援にまわると、このようなこともあわせてするよう

にいたしております。

○議長（飯泉徳島県知事）

はい、伊原木知事さん。

○伊原木岡山県知事

ひと言だけ。常盤会長に言われた視点は大変重要だと思っております。

リスクのタイプが違うところと協力し合うというのは、お互いにとって有効でありまして、実は岡山と広島はリスクのタイプがやはり似ているところがございます。香川県ともそこまで近くなくても近いところがございます。鳥取県とはずいぶん違うリスクのタイプを持っていますので、我々鳥取県さんと色々協力するということは、お互いにとってもいいかなと思っております。

そういった観点、ぜひ我々が防災に協力する際にも考えていきたいと思っております。ありがとうございます。

○議長（飯泉徳島県知事）

どうもありがとうございました。

ということで、今、両経済団体連合会の会長さんからお話のあった点については、我々、まず第1のカウンターパート、これを作っているわけなんですけど、じゃあ、そこ同士がやられてしまった、お互い助け合う同士がやられてしまった、例えば岡山県と香川県が同時被災を受けたといった場合には、他のカウンターパートから応援をしていくという形がやはり必要になる。

今、一次的なカウンターパートを決めたわけですが、今回の色んな事象をみてみますと、二次的なカウンターパート、もちろん四国は四国知事会で、また中国は中国知事会であるんですが、今新たな、それぞれの組み合わせでのカウンターパート。

今回、鳥取県からの要請を受けて、鳥取県のカウンターパートである徳島県が組んで、広島県に入ると、こういった新しい形、複層的に行う、こうしたものを、是非これを機会にして、ここは、尾崎知事さんから話があった、ちょうど今、国土強靱化の地域計画を作る段階になっておりますから、各カウンターパートでそうした点も含めて書き込むというのが新たな基軸、また全国のモデルになるかと思っておりますので、この点は、また尾崎知事さんからも色々知恵出しをお願いしたいと思っております。

それでは皆様方、よろしゅうございませうか。今頂きましたように、今、一次的なカウンターパートは定められているところではありますが、まずそこでの顔の見える関係、官民とものと。

さらには、そのカウンターパート同士が同時被災を受けた場合には、それ以外のカウンターパートが応援するという、新たな二次的なカウンターパートもこの中四国で、全国のモデルとして、そして、こうしたものを、この国土強靱化地域計画の中に書き込んでいくと、こうした点について今後進めていければと思っておりますので、その方向でよろしゅうございませうか。

(「はい」という声)

ありがとうございました。

それでは全国のモデルとなる国土強靱化地域計画に取り組めればと思います。よろしく
お願い致します。

○議長（飯泉徳島県知事）

それでは次に、高速交通ネットワークの整備促進に移りたいと存じます。

こちらにつきましても、共同アピールを行わせて頂ければと考えておりますので、まず
私から、その趣旨、内容についてお話を申し上げたいと思います。

現在、国におきましては、地方創生そして人口減少の克服、国民の安全・安心の確保、
そして成長戦略の具体化などに着実に取り組む方針が示されているところであります。

「コンパクト＋ネットワーク」の考え方に代表されます、東京への一極集中に歯止めを
かけ、地方の活性化を図る取り組みには、やはり高速交通ネットワーク、これが重要な役
割りを果たすものであります。

また、今回の8月豪雨におきましては、大規模災害時における緊急輸送道路や代替道路
としての機能など「命の道」としても重要な高速道路などの早期整備の必要性が、改めて
強く認識されたところであります。

そこで、中四国地方におきまして多数存在する高速道路などのミッシングリンク、この
整備促進がとても必要、重要になるところであります。

さらに今後の大規模災害に対応できる、多軸型の国土構造への転換を図るためには、高
速鉄道網の整備に向けた取り組みを進める必要があります。

すでに高速交通のインフラが整っている地域との格差を解消し「地方創生」を図るため
には、高速交通ネットワークの整備と利活用がまさに不可欠であることから、その整備促
進について、強く国に求めるものであります。

それではこのテーマにつきまして、ご意見を頂ければと思います。いかがでしょうか。

それではまず、村岡知事さん。2番目に小林副知事さん。

○村岡山口県知事

ミッシングリンクの解消、非常に重要であると思っております。山口県でも山陰道の整
備、これがまだ8割が未着手であるという状況であります。特に観光や産業面で非常に重
要であるんですけども、先ほどの話とも関係しますが災害との関係で、今年も県東部の
岩国で災害がありましたが、昨年7月にも大雨による豪雨災害がありまして、各県の皆
様方に多大なご協力、お力添えを頂きました。そうした中で幹線道路が通行止めになっ
てしましまして、住民生活に非常に支障が生じました。

本当にそうした意味では、去年の災害、今年の災害を含めですね、大きな道路の通行が
できなくなったということで道路の必要性が、県の中でも整備を求める声が大きくなって
きておりますし、とても必要だということが痛感されております。

ですから、災害が今多くなっているところも踏まえてですね、ぜひこの幹線道路の整備
を力強く訴えていく必要があると思っております。

○議長（飯泉徳島県知事）

はい、ありがとうございました。それでは小林副知事さん。

○小林島根県副知事

尾道松江線が来年春には全線開通するという事で、山陰から山陽方面また四国方面との交流が、一層促進するのではないかと大きく期待しております。一方で、島根県内の山陰道の供用率はまだ5割にも至っておりません。

島根県は昨年、観光客の入り込み数が過去最大でした。出雲大社さんの大遷宮が、ひとつの大きな支えであったのですが、もうひとつの大きな支えは松江尾道線が松江から中国道までつながったことで、実はこれが大きく役立ったと分析しております。このように、観光など地域の振興に高速道路の果たす役割は非常に高いと私どもは改めて実感したところです。高速道路のミッシングリンクは、早期に解消すべきだと思っております。

ところで、ETC 割引の縮小により、人や物の交流に支障が出ているところがございます。ここにもありますが、鉄道や航空路線など、高速交通網の整備が遅れており、高速道路への依存が極めて高い地域においては、その影響が非常に顕著に出ているところがあります。地域によっては観光客の入り込み数が随分落ちているところがございます。したがってETC 割引は、全国一律ではなく、地域の実情に応じた割引制度が構築できないのかというふうに考えております。以上です。

○議長（飯泉徳島県知事）

はい、ありがとうございました。それでは上甲特別参与さん。

○上甲愛媛県特別参与

愛媛県は、四国8の字ネットワークの愛媛県の内海から高知県の宿毛、しまなみ海道から入ってきた際の今治小松自動車道、それと九州から入る際の八幡浜・大洲の3つのミッシングリンクルートを抱えております。

防災減災対策はもちろんなんですが、先般県境地帯で企業誘致の関係で案件募集する時に、人口減少とか、あるいは働く人たちのことも考えますと、県内だけでは人集めができないという問題がでてきておまして、例えば、本県南予地域、高知県であれば宿毛地域で工場誘致するにしても、高速道路等によって結ばれて、お互いが人材を供給し合わないと、地域活性化も企業誘致もできないような状況になりつつあるということがございます。そういう側面からもミッシングリンク、特に高速道路網の8の字ネットワークの整備というのが非常に大事であるというふうに思っておりますので、そういう点も踏まえて、さらに強く国に要求して頂ければ、ありがたいと思っております。

○議長（飯泉徳島県知事）

はい、ありがとうございました。平井知事さん。

○平井鳥取県知事

今の各県のお話にまったく賛同するものであります。

日本海側の方でいきますと、この度若狭舞鶴道が開通しまして620キロにわたり、京都府の宮津から新潟県の村上まで、長大な高速道路が接続しました。

しかしながら日本海側の方では山陰近畿道や山陰道など、まだ供用率が4割をきる3割をきるというところがずっとありまして、このような状態ではなかなか「地方創生」もままならないことになると思います。

同じような状況が四国の南側の方とかですね、今、上甲愛媛県特別参与が仰るあたりだとか、中四国には数多く取り残されておまして、一致結束をしてミッシングリンクを接続するように求めるべきであります。この度の概算要求で一応の要求は入っておりますが、日本創生の特別枠にだいぶん食い込んで要求がなされてまして、現実にミッシングリンクの接続にまわるかどうかは、なお不透明でありますので、力を合わせて求めていく必要があると思います。

また、鉄道の方もですね、これも道路と同じように、やはりこの度は北陸新幹線の開通がいよいよ目の前にせまってきました。かつて九州新幹線が開通をしたときを思い起こして頂ければ、地域振興としてはそういう地域に視点が集中する可能性がございます。中国、四国も同じように新幹線の計画だけでとまっているところがございまして、高速鉄道に向けて、これも一致協力をして、この地域における鉄道の検討を国に求めるべきだと思います。

○議長（飯泉徳島県知事）

はい、尾崎知事さん。

○尾崎高知県知事

四国の南側、高知県でございます。

本当に、ミッシングリンクがまだ数多く残っている県でありまして、かつミッシングリンクが残っている地域は津波予測が非常に高い地域であります。ぜひとも早期にこのミッシングリンクの解消をして頂きたいと考えておるところです。その中でも、やはり急いで頂きたいと思っておりますのは、計画段階評価、これはまだ未実施の部分があるわけですが、この早期の実施をぜひ求めていきたいと考えております。

高速道路が将来できあがりますとこれが防災のための要となる施設ということになって参ります。例えばインターチェンジがどこにできるか、さらにはどこを高速道路が通るか、それを基軸として、地域の防災体制というのを作り上げていくことになるわけございまして、計画段階評価がなされていませんと、その基軸の部分がまだ定まらずということになるわけでありまして、そういう点からも、とにかく計画段階評価未実施のところについて急いでやってもらって、概ねの姿を見せてもらって、そして次の防災対策につなげていくと、そういう流れをぜひ作らせてもらいたいと思います。

○議長（飯泉徳島県知事）

はい、ありがとうございました。浜田知事さん。

○浜田香川県知事

私も、高速道路の防災上の効果は大きいものがあると思ってまして、その観点でミッシングリンクももちろんですけども、暫定二車線では防災上の効果は限られてしまうので、早急な四車線化を進めていくべきだと思います。

平井知事が仰った高速鉄道網について、全国新幹線網という議論の中で、中国地方の山陽新幹線は早くからありますけれども、四国へのアクセスということが空白のまま、計画はあるけれども、四国新幹線、四国横断新幹線ともに足踏みをしたままということで、国土軸ということ、またリダンダンシー等、知事会のグランドデザイン構想会議でいろいろ議論したことを、もうちょっと前に進めていくということが全体として国において取り上げてもらわないと、いつまでもこういう不均衡な状態というのは、道路にしても鉄道にしても解消されるべきだと思っています。以上です。

○議長（飯泉徳島県知事）

はい、ありがとうございます。ほとんどの皆さま方からご発言がありましたように、いかにミッシングリンクの解消、そしてその料金問題、さらには高速鉄道網ですね、この必要性、またこうしたものについては、平時、災害時ともに考えていかなければいけない、大変重要なもの、どちらかというところでは、いざ発生となったときに、ミッシングリンクがいかに有効なのかと、こうしたご意見が強かったのではないかと、このようにも思います。それでは皆様方の思いのこもりました今回のこのアピール文について、お諮りしたいと存じます。原案どおり承認してよろしゅうございましょうか。

（「異議なし」の声）

ありがとうございます。この思いをしっかりと汲み、そして「地方創生」、このアピールなければ成り立たない、ということの中四国から強く発信して参りたいと思います。

ありがとうございます。

○議長（飯泉徳島県知事）

それでは次に、3番目の人口減少問題への対応に移りたいと存じます。まず香川県から人口減少問題について、そして高知県からは少子化対策について、ご提案を頂いておりますので、まず浜田知事さんお願い致します。

○浜田香川県知事

この提案の趣旨ということでございますけれども、ご覧のとおりのような推計といたしますか、試算が出ておりますけれども総務省は、こうした人口推計によると37の道府県では、平成24年10月から平成25年9月という区切りにおいて、人口の自然増減そして社会増減ともにマイナスであると、特に社会増減については、プラスになっているところが、大都市部だということ、また人口動態統計によると、合計特殊出生率が1.43ということで、若干上昇しておりますけれどもこれは計算上の話で実際は、女性人口が減少しているので、出生数そのものは過去最小ということで、自然減にもなっているということなの

ですが、「選択する未来」委員会ですとか、冒頭、飯泉知事から指摘もあった、消滅市町村の議論を提起されたような、ああいう議論がようやく国全体として本気になってきたように思います。私自身は特に人口の社会増減について、日本全体の中で非常にアンバランスであると思っています。せっかくの子育て環境に優れている、中国四国地方からどんどん大都市部に吸収されてしまって、その大都市部で出生率が低いというのは極めて悪循環でもありますし、日本全体で本当に消滅するような地域が出てくれば、都市部もなりたっていない、国そのものの問題だと思えます。尾崎知事が去年から、一生懸命予算要望にも取り組んでいただきましたけれども、地方から大都市への人口の流出に歯止めをかけるという点も、ぜひ中四国9県で連携して取り組む必要があるのではないかと、このように思っております。

○議長（飯泉徳島県知事）

はい、ありがとうございました。それでは尾崎知事さん。

○尾崎高知県知事

この人口減少問題については、全国知事会でも非常事態宣言を発出して、もう本気で取り組んでいこうということで今取り組みを進めています。平井知事をリーダーとする「子育て同盟」もありまして、ほんとに色んな多層的にそれぞれの皆さんがこの問題に熱心に取り組もうとしてきているところです。

今、浜田知事もいわれましたように、そういう中、政府においても、去年少子化対策で色々政策提言をもってまわったときと今年では全然反応が違うといいますか、ある意味本当に政府としても本気でこの問題に取り組もうとしておられるということを非常に強く感じておりました。今もうラストチャンスとしてぜひこれを具体的な対策そして成果を上げるということにつなげていくべき時だと考える次第です。

そういう中で政策提言をしていく中で、少しだけやはり懸念される点というのがございます。この少子化対策そして人口減少問題について、若干いわゆる都会目線で対策が講じられることとなるのではないかという懸念であります。最たるものが地方拠点都市構想といわれるものでありまして、各田舎から若者が流出するのを防止するために、各県で一定大規模な都市を人口流出防止ダムとし、そこに若者がとどまるように出来ればそれでいいのではないかというような議論であります。

これをやられますと中山間地域は消滅をしてしまう。それを容認するということになりかねません。中山間地域が日本の農業の4割を支えております。本県でいえば7割であります。この4割の地域に若者が残らなくなってしまうと、日本人は飢えてしまうということになってしまうわけでありまして、そういう点からいって、中山間地域にも若者が残れる対策というのをこの人口減少対策さらには「地方創生」の議論の中でしっかり講じて頂くということが非常に重要だと考えております。

こういうことはなかなか都会の方々に言ってもわかりにくいところがございますので、中四国の各県結束をして、この点具体的に積極的に訴えていくということが非常に重要だと考えております。こういう点、ぜひまたいわゆる中四国で連携をとって取り組みを進めさせて頂きたいと思えます。またよろしくお願いを申し上げます。

またそういう中、ひとつご紹介であります、今日四経連の常盤会長もおいでになっておられますが、今月 12 日に、四国 4 県と四国経済連合会で「四国少子化対策会議」というものが立ち上がる予定でございます。官民共同で、またその地域地域におきましても、少子化対策をしっかりと進めていきたいと、そうすべきであろうということでありまして、ぜひともに取り組みを進めさせて頂きたいと思っております。よろしくお願い申し上げます。

○議長（飯泉徳島県知事）

はい、ありがとうございました。この点、常盤会長さんよろしゅうございますか。

○常盤四国経済連合会会長

今、尾崎知事が仰ったように、会議を設立したいと思っております。

少子化・人口減少問題というのは、やはり地方が共通して抱える問題だと思っております。特に、若者の域外流出抑制という観点からは、東京一極集中の是正が欠かせないので、中四国地域が一体となって、このことを国に訴えていくべきだと思っております。

○議長（飯泉徳島県知事）

はい、ありがとうございました。

今、常盤会長さんからは、四国の取組みとして、尾崎知事さんが言われました「四国少子化対策会議」、これは行政だけでは、もう少子化はとめられない、やはり経済界、行政一体となって進めていこうと、今月の 12 日に初開催となるところでありますが、こうした点も四国だけではなくて、中四国で取り組んだらどうだろうか、お話を頂いたところでありますので、まずこの点について、中国の知事会の会長である平井知事さん、まずいかがでしょうか。

○平井鳥取県知事

まず、先般ですね、尾崎知事におかれては、山田知事会長と一緒に、総理の方に少子化の緊急事態宣言をお持ち頂き、確たる成果を今、上げておられますことを、感謝を申しあげたいと思っております。

今日から始まる新内閣の一つの大きなテーマは「地方創生」ということであります。それを今までの人口流出をひっくり返していかなければならない。キーワードになるのは少子化対策であり、IJU ターンなど人口の逆移動を起こすことだと思います。そういう意味で少子化対策は、十分、私共、地域としても連帯してやっていかなければならないことだろうと思います。いずれ、山下会長とか、あるいは各県の知事さんとも相談をさせて頂いて、どういう連携が四国側とできるのか、今後、また協議をさせて頂きたいと思っております。

また、併せて自由度の高い少子化対策の交付金を国から引き出すなど、我々レベルです、各県あるいは市町村の動きやすい制度を国に求めていく。これも当面の重要課題ではないかなと思っております。

○議長（飯泉徳島県知事）

ありがとうございます。

今、平井知事さんからもお話がありましたように、昨年、全国知事会では尾崎知事さんに次世代育成支援対策P Tの座長をやって頂きまして、国に対して少子化対応を本格的にやらなくてはいけないと、今ご紹介のあった、自由度の高い交付金、これを引き出すことができたところでありまして、これからは本格的に、このロットも大きくする。使い勝手も良くすると、これが大きな方向となるというお話になります。この点につきまして、中経連の山下会長さんからも一言頂ければと思いますが、今後の方向性などについていかがでしょうか。

○山下中国経済連合会会長

ありがとうございます。

当連合会は、昨年の3月に、実は中国地方における人口の社会減抑制のための移住定住促進方策に関する調査を行いまして、その中で少子化対策についても調査をし、提言をしてきたところであります。7月に全国知事会で少子化非常事態宣言というので、遅きに失した感はありますが、我々経済界としても大歓迎でございまして。そういう意味で我々は、中国地方としても当連合会としても人口減少課題解決の先進地域になりたいと、人口減少先進地域では無くて、課題解決の先進地域になりたいと意気込んでおるわけでありませう。

今、平井知事の方からも、四経連の、四国の取り組みについて聞かせて頂きまして、我々も本当に大賛成でございまして、大変ありがたい提案だと思っております。一つよろしくお願い致します。

○議長（飯泉徳島県知事）

はい。ありがとうございます。

この中四国における人口減少、もっと言いますと中四国で、この課題が解決でなければ日本の未来は無いといっても過言ではないと、いうことになると思います。しかも中四国サミットの一番のメリットというのは、知事だけではなくて、それぞれの経済界の代表が入っておられるということですので、ここで決まれば、そうした方向性が速やかに進んでいくということでもあります。

今回、四国で取り組む「四国少子化対策会議」、一つの形ではありますが、中国地方でもそれぞれご検討を進められ、そして課題解決の地域をめざしていくのだと、山下会長さんからもございました。

そこで皆様方に方向性をお諮りしたいと思いますが、中四国全体で行政と経済界が組んで少子化に対して、課題を解決する処方箋を出していくんだと、そして形としては四国の場合は「四国少子化対策会議」というものがありますが、その後、中国でも進めて頂きまして、中四国一帯としてこれを進めていくと、こうした方向性でよろしゅうございますか。

（「はい」という声）

○議長（飯泉徳島県知事）

常盤会長さんどうぞ。

○常盤四国経済連合会会長

当会としても、中国側と情報連携を、密に行いたいと思います。

○議長（飯泉徳島県知事）

はい。ありがとうございます。

山下会長さんもよろしゅうございましょうか。

○山下中国経済連合会会長

はい。結構でございます。

○議長（飯泉徳島県知事）

それでは、新たに中四国がまさにこの人口減少問題、官民、特に行政と経済界一致結束をして進めていくと、こうした方向性を今日定めさせて頂きたいと思います。

よろしくお願い致します。

○議長（飯泉徳島県知事）

それでは次に4番目、広域観光に移りたいと存じます。

四経連からは、中四国地域が一体となった広域観光推進について、そして鳥取県と岡山県からアンテナショップの連携について、ご提案を頂いております。また本県からは訪日観光誘客対策について提案をさせて頂きたいと考えておりますので、ここから意見交換をしたいと存じます。

まず、四経連の常盤会長さんお願い致します。

○常盤四国経済連合会会長

この4月から本四高速料金が全国共通料金制度に移行致しました。これは中四国間の広域交流の拡大、中四国への観光客誘致の絶好のチャンスだと考えます。そのため現在、瀬戸内海周辺の各県、また中経連、四経連などが「環瀬戸内海地域交流促進協議会」を設置し、その具体的方策の検討を行っているところでございます。

冒頭、飯泉知事が仰ったように、今年はメモリアルの年でございますので、そういうことも活かしながら、瀬戸内の自然、歴史文化、食の活用、本四三橋を介した連携イベントなど、交流促進策を進めて、活発な中四国の広域交流圏形成に向けて、官民挙げて取り組み、インバウンド客の増加につなげていきたいと考えています。

○議長（飯泉徳島県知事）

はい。ありがとうございました。

それでは平井知事さんお願い致します。

○平井鳥取県知事

ただいまの常盤会長のご意見のように、インバウンドですね、色んな観光を引き込んでくる。中四国は他の地域と比べて非常にその点が薄うございますので、重点課題としてやるべきだと思います。

その一つの魅力となるのは、やはり物産だとか食べ物などの魅力だと思います。これを、是非連帯して訴えかけていければと思います。先ほど飯泉知事が平成 15 年に、徳島県でこの中四国サミットを開いて以来だというお話がありましたが、私も思い出しましたが、当時、私も副知事で参加をさせて頂きました。その時に初めて徳島ラーメンというのを飯泉知事にご馳走になって食べたわけでございますが、今日も行って来ましたけれども、あんなに珍しいラーメン他に無いと思います。しかもネギをタダで入れるのを見たことはありますが、卵をタダでくれて、こういうものもあるんだなど。やはりこの辺に色々な出会いと喜びがあるんだろうと思います。

そんなことから考えまして、この度、岡山県と鳥取県で共同でアンテナショップを新橋に開設をすることになりました。実は鳥取県は従来、これも小規模のショップを持っておりましたが、隣がスターバックスで居心地が悪いこともございまして、この度、撤退をして岡山県と一緒にお店を作ることになりました。

そうすると、目の前に香川県のお店があり、愛媛県のお店がありまして、その瀬戸内のショップとちょうどコラボレーションもやりとりしやすくなりました。早速、開設をする 9 月 28 日でございますが、それぞれのショップで 1,000 円ずつ買って貰うと、プレゼントをあげますというような、そういうセールをやるということ、浜田知事、上甲愛媛県特別参与のご理解も得て、進めさせて頂いております。

本当は中四国全域で束になって売り出さなければならないと思います。おそらくこれから、年度が変わる頃には、北陸を中心として東京のメディアがそちらに集中する可能性があります。むしろ中四国の顔を見せる、そんな意味でもアンテナショップを活用してはいいかかと思っておりますので、ご検討頂ければと思います。

○議長（飯泉徳島県知事）

はい、ありがとうございます。両県でアンテナショップを出されるということですから、鳥取県だけではいけませんね、伊原木知事さんどうぞ。

○伊原木岡山県知事

私が申し上げたいのは、平井知事の仰ることを是非実現してくださいということであり、本当に 2 つの県で共同でアンテナショップを出すという、大変珍しいことであるわけですが、香川と愛媛で上手くいっていることもあり、是非我々も二例目として頑張っていきたいと思っております。

また、たまたま立地が目の前でございますので、これから永遠のライバルとして胸を借りるつもりで常にはす向かいのお店をめざして頑張っていきたいと思っております。また、こういう共同アンテナショップを作りましたので、これ以降、平井知事と個人的に喧嘩をしてしまうと県と県の問題に発展してしまうということでは是非仲良くさせて頂きたいと思っております。

これまで岡山県だけがアンテナショップを持っておりませんので、ご迷惑をおかけしてい

たかかもしれないですが、これで中四国全ての県でアンテナショップを持っているということですので、是非何か共同で、お互い紹介し合ったりお互いのお客様が別の所に行ってみたくするような。これがスタンプラリーなのかイベントの紹介なのか、色々やれることはあると思います。当然、面積が違ったり形態が違ったりして簡単ではないんですけども、できることから色々試して、盛り上げていきたいと思いますので、どうぞご検討よろしくお願い致します。

○議長（飯泉徳島県知事）

はい。ありがとうございました。

こうなると度々名前が紹介されていますので、浜田知事、お願い致します。

○浜田香川県知事

このアンテナショップの件、伊原木知事の提案に大賛成です。共通のセールも勿論ですが、表示の仕方とか、9県で共通してやっている、取り組んでいるということを示すのには、色んなやり方があると思います。私も関心があるので、愛媛、香川の共同アンテナショップは、上京するとちよくちよく行くのですが、高知や広島のアンテナショップなど、新しいところほど凄いのが出てくると感じています。ただ、伊原木知事が言われたように、鳥取と岡山の店に行った方が、すぐ目の前にある愛媛、香川の店に行くというのは、宣伝すればすぐ来てくれると思います。その逆もそうですから、その広がりをも9県全体に広げていって、共通のシンボルマークとか地図とか、あるいは季節ごとのセールとか、平井知事仰るように、北陸に目を向けがちな所を、中四国全体一体となって取り組んでいくという意味で、知事だけが言うのではなく、具体的なワーキングのようなものを9県で一度持ち寄ってみてはどうかと思います。

○議長（飯泉徳島県知事）

はい。ありがとうございました。それでは上甲特別参与。

○上甲愛媛県特別参与

香川県知事さんが仰いましたように、非常に良いことだと思っております。特に岡山県と鳥取県のアンテナショップは88㎡のイベント等ができる催事場があるとお聞きしております。せとうち旬彩館は10㎡ぐらいのイベントスペースしかありませんので、そちらの催事場を活用した4県連携みたいなものや、9県連携というものができるのではないかと思います。今、香川県と愛媛県の事務レベルでどういう催事ができるのか、協力ができるのか、連携ができるのかを詰めているということですので、是非今言ったような方向性に沿って相乗効果が発揮できれば良いなと思っておりますので、宜しくお願い致します。

○議長（飯泉徳島県知事）

はい。ありがとうございます。尾崎知事さん。

○尾崎高知県知事

高知県のアンテナショップは銀座一丁目にありますから、ちょうど新橋の思いっきり反対側ということでもありますけれども、よい周遊ルートができる位置にあると思っております。銀座一丁目のうちのアンテナショップの周辺というのも、アンテナショップの激戦区でもあり、隣は沖縄、茨城、それから福井、広島のアンテナショップも近くにあります。それから確か徳島の経済界の出されているショップもあります。非常に近隣にも中四国でも連携できる県の皆さんがいらっしゃるようです。近隣の県で固まって色んな共通のイベントをやったりしているところなんです、ちょうど位置的に銀座周遊ルートにもなるということで、連携ができる場所があると思います。是非一緒に取り組みさせて頂ければと思います。

○議長（飯泉徳島県知事）

はい。それでは、今、広島県の話が出ましたので。

○中下広島県副知事

今、お話に出ましたように、銀座一丁目に私共のショップを出しております。酒祭りイベントなどエリアの中で色んな提携をしたイベントをやっております、非常に相乗効果が上がっておりますので、是非進めていって頂ければありがたいと思っております。ただ、日本橋から有楽町、新橋と長い線上になっておりますので、そういうことも踏まえながら、上手く周遊できる方法を検討して頂ければと思っております。ありがとうございます。

○議長（飯泉徳島県知事）

小林副知事さん、どうぞ。

○小林島根県副知事

島根県は日本橋にアンテナショップを出店しております。

中四国ということではないのですが、昨年三重県、奈良県のアンテナショップとスタンプラリーをやらせて頂きました。伊勢神宮、出雲大社さんの遷宮ということで三重県さんと、それから古事記の1300年ということで奈良県さんと、一定の観光の目標を持ち、かつアンテナショップが近いということで、一緒にスタンプラリーをやらせて頂いて、一定の効果が上がっております。先ほど地理的な問題があるという話でしたが、中四国の広域連携観光を進める意味でのスタンプラリーといったように、実務的にご検討頂けたらと思います。以上です。

○議長（飯泉徳島県知事）

はい。では村岡知事さん。

○村岡山口県知事

今の観光の話の前に、先ほどの少子化の関係で、経済界の方々と一緒になってという話

で、ご紹介差し上げたかったんですが。

先月、山口県で、子育て連盟というものを設立しました。構成団体として、県と市町村、それから子育て関係の団体や経済界の皆さん、大学、労働局などに入って頂いています。先月立ち上げて、私もキャプテンということで、少子化対策を何とかしていこう、子育てをしっかりと支援していこうという思いでおります。

山口県も現在、人口が140万人を越えるくらいですけれども、2040年は107万人程度になるということであり、約30万人減ると言われていますが、その減る30万人というのは、みんな生産年齢人口が減るのですね。高齢者人口のところはずっと40万人で変わらないということで、企業の皆さんもこれは何とかしないといけないという危機感が、特に地元の企業さんには強くあるのかなと思います。

そうした中で、県内に西京銀行という銀行があるのですが、子育て支援の取り組みを一生懸命されている銀行さんで、先日、その取り組みを紹介して貰ったのですが、育児事業の取り組みが充実しています。子供にですね、1人目産むと5万円手当を出して、2人目産むと10万円出して、3人目を産むとなんと100万円出すということをされています。お話を聞いていると企業の方でも、働いている方々の家庭が幸せでないと良い仕事ができない、だからこうやるのだと、非常に素晴らしいお考えでされています。

ですから、企業の方も、少子化問題というのはこれから先の事業を考えた上で大変重要な問題だという風に捉えておられます。そういった意味で少子化問題は、官だけじゃなくて社会総掛かりでやらなくてはならない問題でありまして、そうした認識が、先般の日本創成会議の中間とりまとめだと思いますし、国の方でも、色々と尾崎知事にお取り組み頂いて、非常に機運高まっておりますので、大きなチャンス、知事会でもラストチャンスと言っておりましたが、そういう機運自体が非常に広がっていると思いますから、先ほどの話で、中国四国地方で一体となった取り組みを進めていくということは、山口県としても賛成したいと思います。

それから、アンテナショップの関係ですね、各県非常に取り組みが進んでいて、我々も一生懸命、勉強しながらやっています。山口県のアンテナショップは日本橋にあるのですが、なかなか分かりづらい場所にあるなど色々課題があって、今、まさに検討しているところでもあります。食べ物というのは皆好きですから、これで皆さんが共通で連携しながら、色々な打ち出し方をしていくと、中国四国の全体のイメージアップや、効果があると思っておりますので、各県の皆様方の取り組みをしっかりと勉強させて頂きながら、中四国で上手く連携をして発信ができるといいかなと思います。

山口県もふぐとか、そういうイメージがありますが、それ以外も色々美味しいものがあるのですけれども、一つずつが小粒だったりするものですから、これが単県ではなく、中国地方、中四国地方などそういった圏域での食のイメージが出来ればですね、非常に大きな力になると思っておりますので、是非連携をさせて頂きたいと思っております。よろしくお願い致します。

○議長（飯泉徳島県知事）

はい。ありがとうございました。

今、各県のアンテナショップの話が出ましたので、私も一つご紹介しておきますと、

今、尾崎知事さんからご紹介頂きましたように、徳島では民間が立ち上げるものを、県として認証しております、県が認証するアンテナショップというのが実は2つあります。交通会館の1階にトモニという銀行グループが出店し、徳島県と香川県の特産品を販売する「トモニ市場」がありまして、これが第1号の認証店です。有楽町の駅前です。それから、第2号が商工会連合会の皆さんが銀座一丁目に「ええもんあるでえ徳島」という形で開いております。これを2号店として。県の直営としては全国初ローソンと組む形で、虎ノ門の巴町店。それから飯田橋の駅すぐの三丁目店と。

そういう形でいきますと、日本橋からずっと飯田橋さらには、虎ノ門、銀座、新橋と。これが実は中四国の皆さん方と組んだエリアとなるところでありますので、それぞれからご発言がありましたように、なんととっても日本海、瀬戸内海、太平洋、紀伊水道、豊後水道まで持つ中四国でありますので、是非、先ほどはスタンプラリーというお話もありましたが、実はこの中から6県がメンバーに入っている、湯崎知事さんが立ち上げを宣言された「瀬戸内ブランド推進連合」の中でも、パスポートをお互いで交換したらどうだろうか。例えばうどんのパスポートが香川県にありますし、徳島もおどる宝島パスポートがありますし、愛媛県にもあるということで、こうした点も提案をさせて頂いておりますので、今日そのキックオフとしてこれを全体の点から線、線から面へという形での共同を進めていくという形でもよろしゅうございましょうか。

(「はい」という声)

ありがとうございます。

それでは新たに、今度は面として勝負を東京の地でかけていきたいと思えます。よろしくお願い致します。

○議長（飯泉徳島県知事）

そして私から、一点ご提案であります、いよいよ東京オリンピックに向けまして海外から、特に今まで1000万人しかインバウンドがいなかったものを、ようやく昨年であります、2020年には2000万人と、国が方向性を示しているところであります。

徳島県でも東アジア、東南アジアの誘客を進めようとしているところではありますが、よくよく分析をしてみますと、このうち香港、台湾、そして韓国、シンガポール、ここの皆さん方というのは、実はレンタカーで日本を観光する、こうした傾向が強いということでもあります。そして、北海道や中部地方におきましては、NEXCOとそれぞれの道県などが連携致しまして、特に外国人の旅行客向けの高速道路料金の企画割引、これを実施しております、利用者が大変増加傾向にある、というリサーチも出ております。

そこで今年は、先ほど常盤会長さんもお話がありましたように、本四高速全国共通料金になった、これを契機と捉えまして、四国地方と中国地方を周遊観光する、特に海外の皆様方に対するの利便性を向上させようということで、NEXCOの皆さん、あるいはレンタカーの皆様方、本四高速もそうですけれども、さらには自治体関係者が連携をして高速道路料金の企画割引、特に定額周遊プラン、これに取り組んではどうだろうか。先ほどアンテナショップの、お互いスタンプラリーというものもあった訳ではあります、中四国全域

を対象とするスタンプラリーも面白いのではないかと思うところではあります。是非皆様方にもご意見など頂きまして、前向きに取り組んでいければと思います。この点についても全部含めていかがでしょうか。

はい。伊原木知事さん。

○伊原木岡山県知事

全く大賛成でありまして、私、タイ、台湾、色々、岡山県のアピールに行くたびに、岡山県だけでアピールしても響かないと感じます。それを先回りして、実際には、中国地方でアピールしたり、瀬戸内海ということでアピールしたりするんですけど、観光に関して特にインバウンド、海外からということでは、この一つずつの県は小さすぎます、お客様からすれば。是非、広域観光ということで、色んな協力をしていきたいと思います。素晴らしいと思います。

○議長（飯泉徳島県知事）

はい。ありがとうございました。

それでは、この周遊観光の点につきましても、皆様と共に進めていくという方向でよろしゅうございましょうか。

ありがとうございました。それでは、今日をキックオフとして中四国全域で進められればと思います。

○議長（飯泉徳島県知事）

それでは、ご用意した最後のテーマとなります。地方産業競争力協議会についてであります。高知県からご提案を頂いておりますので、まず尾崎知事さんからお願いをします。

○尾崎高知県知事

はい。既にお配りさせて頂いておりますけれども、四国地方におきましても産業競争力協議会におきまして、四国産業競争力強化戦略をとりまとめさせて頂いております。

今、四国4県と経済界の皆様と一緒にやらせて頂きながら、それぞれ連携をして実施をしていくプロジェクトごとにリーダー県、サブリーダー県を定め、それぞれの取り組みについて5W1Hをはっきりさせて、工程表を作って、具体的に進めていくという取り組みを進めさせて頂いておるところでございます。四国4県として、是非、連携をさせて頂きながら、取り組みを進めさせて頂きたいと考える次第であります。

そしてこれから「地方創生」が内閣の大きな課題となってくる、そしてこちらについて色んな議論がされていくことになろうかと思っております。中四国連携して四国としての取り組みはこう、中国地方としての取り組みはこう、ということをよくよく国に理解を頂いた上で、それぞれの政策展開を国においても図って頂くということが、非常に重要になってこようかと考えておるところでございます。是非是非、各県、そして四国、そして中四国、それぞれの取り組みを、国に一体的に訴えていきたいと、そのように思っております。

先ほど申しあげたことと被ることではありますが、若干「地方創生」とかの議論の中で、

懸念をされる点がいくつかあって、都会目線で見ている、ちょっと地方の実情にあわないというところがあるという話を先ほどは申し上げましたが、その他にも関連することとして、2つ懸念される点があると思っています。

一つ、国は地方は何もやっていないという前提で、仕事をしようとしているんじゃないかということです。国の担当者なんかと話をしています、本当に知らないなど。それは仕方ないんです。その担当も四国4県のそれぞれのことまで勉強する時間もないでしょうから。ただ、何もしていない前提で彼らが政策を作るのと、やっていることを後押ししようという姿勢で作るのでは、作り方にも違いがでてきますし、政策効果の実態も違ってくるだろうと思われるわけでごさいます。やはり国の皆様にも、是非是非、地方が何をしているかということについて知ってもらおうということは非常に重要だと思っています。

それともう一つ、若干懸念されるなど私が思っておりますのは、いわゆる企業の戦略と地方再生という形の戦略っていうのは相当違う物がありますので、いわゆる企業さんにおいても、事業戦略と企業戦略というのは違いますように、さらにいえば、地域再生のための戦略というのは、また企業戦略とは違うところがある。ただ企業戦略のアナロジーによって、それを一つ例にとって、よく地方においても選択と集中をする必要があるなどというような議論をされることがあります、これは私は違うと思うんですね。

例えば高知県、選択と集中をすべきである、カツオに絞るべきだ、などといっても成り立つわけがありません。75万人の人がそれぞれの課題を抱えています。それぞれの企業さんが、自分達の選択と集中をする中で、それぞれ異なる課題を抱えておるわけでありませう。製品力に課題があるところ、流通というところに課題があるところ。さらにいえば販売力そのものに課題があるところ。色んな課題を抱えている多様な人達のニーズに応じてこそ、全体としての地域の再生というのが成る、ということでもあります。

そうでありますので、色々いわれる議論の中で、地域の再生とはどういうことなのか、その必要な総合的に取り組むべきメニューっていうのはどういうことなのか。これは実際に地域の再生に向けて全力で取り組んでいる人達でなければ分からないことだろうと思っています。

色んな意味において、地方がこの「地方創生」の仕事に対して、しっかりと声を上げて、地方のやっていること、地方の本当の問題点を伝えていくことが重要だと思いますので、この中四国の枠組みの中でも是非結束して色んな訴えを今後させて頂きたいと思えます。

○議長（飯泉徳島県知事）

はい。それでは、浜田知事さんどうぞ。

○浜田香川県知事

はい。ありがとうございます。

さっきの人口減少問題にも関連するのですが、「地方創生」ということについて、一つ具体的にいうと、私が必要だと思うのは、地方の大学の充実強化であります。知の拠点であるべき各大学が、特に私立の大学が少ないような所では、国立大学法人がしっかりして

欲しいというか、頑張っって欲しいと思っています。全体の年少人口が減少している中で、文科省の改革の方向というのが何となく、絞り込んでしまうようになっていると思いますが、これは本当は逆で、地方国立大学法人をもっと充実強化するような、アメリカとか欧米の例を見ていると、地方に素晴らしい大学がいっぱいあるわけでありまして、それと比較すると日本は旧七帝大というようなところに集中してしまっているように感じてしまいます。地域の大学の規模の強化というようなことを、7月の佐賀での知事会でも、私ちょっと申しまして、全体の人口減少の中の話として折り込んで頂きましたけれども、それぞれ各県ごとに少しずつ状況は違うかも知れませんが、若者が大学進学でいったん東京に出て行ってしまうと、雇用の場を確保しても、戻ってこないのが、若者の流出を止められるような魅力ある大学になるようにするという観点でも、検討していくことが必要なのではないかと考えています。

○議長（飯泉徳島県知事）

はい。ありがとうございました。

それぞれ都市目線から、中山間地域、また、地方目線ということで、これは大変重要な点であります。先ほど山下中経連会長さんが仰ったように、やはり課題として中四国、この産業競争力といった点では非常に重要な地域となるところでありますので、中四国で上手くいかなければ、おそらく日本全体で上手くいくわけはありませんので。そうした処方箋のきっかけ、こうしたところを、逆に中四国から打ち出していくということは重要ではないかなと。今お二人の知事さんからの着眼点、これは重要なことと思いますので、こうした点について、今度は中国の方の産業競争力協議会の会長を務めて頂いております、平井知事さんからいかがでしょうか。

○平井鳥取県知事

はい、中国地方では5県で、今日は山下会長もお見えですが、経済界だとか、街の人達も含めて、完全に知事会主導でさせて頂きまして、成長戦略を練らせて頂きました。資料3の方にございますけれども、具体的に医療関係のクラスターを作ろうとか、あるいは航空産業がどうだとか、また Ruby といわれるようなソフトウェア言語を使ってビジネスが出来ないだろうか、あるいは、六次産業化、インバウンド観光、伝統産業、そういうものを創造していこうと、具体的なプロジェクトを作りました。

そのためには、インフラ整備や人材育成、さらには中小企業の活力を向上させるような政策が必要だと、国の方にも出させて頂きました。尾崎知事とも一緒になりまして、甘利大臣や小泉政務官の成長戦略会議のヒアリングに臨みました。ただ、残念なのが、それが全然使われないのですね。これは一体何だろうかという風に思います。

今日を契機に新しい「地方創生」、「まち・ひと・しごと」づくりの体制ができ、内閣の最重要課題になるはずであります。いわば「地方創生」という発心のお遍路に今日から出るのでしょうかから、我々としても新しい旅の中で、我々の地域の実情を踏まえた経済戦略や地域戦略を狙えるように、国に積極的に働きかけなければならないと思います。

例えば、中央分権改革に基づいて提案制度というのがありましたが、8割方は蹴り返されているという、とんでもない状況でありますし、国家戦略特区ができたのはいいのです

が、第一指定で出来たのは大都市ばかりでございまして、中四国はどこにいるのだということでもあります。

やはりですね、もう一度その地方を基軸においた政策の立案体制、これを新しい内閣の中で早急に作ってもらう必要があるだろうという風に思います。そんな意味で、今、浜田知事が仰ったような、大学の地方分散は、大事な課題だと思います。また法人税を、地方部は大都市部と違って進出してくる場合には軽減をするということがあってもいいのではないだろうか。また、中央省庁はなかなか地方に出てこないですが、政府機関の研究開発の機関であれば、地方分散が可能ではないだろうか。

具体的な戦略を持って、我々も「地方創生」の動きを、今日から国に訴えかける必要があると思います。今日はターニングポイントでありますので、是非、中四国各県で合意を得て地方の経済戦略、あるいは地域戦略に国が耳を傾けるように、あいくちを突きつけていく必要があると思います。

○議長（飯泉徳島県知事）

はい。ありがとうございます。

中国地方の知事さん方いかがでしょうか。はい。伊原木知事さん。

○伊原木岡山県知事

まだ、ちょっと時間がありそうですので。

今の本当に平井知事の仰るとおりでありまして、私、これまで育ってきた時には、色んなものを分けて、役割分担をはっきりさせるというのが、国の正しい方向だ、成長だと信じていた方の人間なんです。例えば町でいえば、ゾーニングをして、ここは商業ゾーン、ここはオフィスゾーン、で郊外に住宅ゾーンがあって、っていう。それが実はあまり上手くいかないということが分かってきて、そういった機能を混ぜる方がいいでしょうという、町作りも随分方向が変わってきました。あと、例えば家族も切り分けて、核家族を集合住宅に入れるのがいいでしょう、老人の人は固まって住むのがいいでしょう、東京は知の拠点としてそこで大学も集める、そこで世界と戦える会社を集めて、そこで上がる税収をごめんなさいねということで地方に配ると、これが、なかなか効率的なんじゃないでしょうかということできたんだと思うんですけども、それが色んな所で上手くいなくなっている。

核家族じゃなくて、おじいちゃんと一緒に住んでいることで、子育ても上手くいっているよねとか、各地域であまり一つのもの、カツオに特化する、みたいな。何か企業城下町になってしまうと非常にもろいよねという。一つの地域が色んな要素をもって、お互いに有機的にしていく方が本当は強いよねっていう、そういう方向に戻っていくのであれば、先ほどの平井知事が仰ったように、私 20 年ぐらい前であれば、東京と地方で法人税率を変えろっていう訴えはちょっと極端だなとか、多分賛成しなかったと思うんですけども、今、実際に岡山でこういう立場で仕事をしていると、法人税率、私、変えるべきだと最近思ってきています。東京の方はあまりにも人が多すぎて、非常に皆、苦勞している。地方の方は人が足りなくて元気がないといっているわけですから。是非分散させるような

インセンティブをもっと強力に作らなければいけないと思っています。

○議長（飯泉徳島県知事）

はい。ありがとうございます。村岡知事さんどうぞ。

○村岡山口県知事

はい。ありがとうございます。

やはり今回、中国地方をはじめ地方でもそれぞれ経済界を巻き込んで戦略を作ったわけでございます。これはそれぞれの地域の強みをしっかりと踏まえた上で、圏域としての目指すべき方向を出したわけでありますから、国にはしっかりとこれと向き合って欲しいと思います。このような場を作って終わり、というわけではなくて、しっかりと国の方からの打ち返しなり、こちらからのコミュニケーションをしっかりと出来るような形にしていかなければいけないと思いますから、そこは強く言っていくべきだと思います。

特に、若者の人口の減少といいますと、若い人達、大学に行くような子達をちゃんと地元に残していくことが必要だと思いますから、大学を地方に分散するのですとか、企業を地方に持ってくるというようなことを国としてしっかりと方向性を出して欲しいと思います。

平井知事も仰った、国の機関の地方への分散もそうだと思いますし、この地方同士が、例えば我々も企業誘致一生懸命やっていますし、色々なことをやっていますけれども、それぞれが資源をどんどん投入して、過当競争をするのではなくて、国の方で大きな方向性として、東京にある色々なものを分散させていくというような、方向性を出して貫うということが必要ではないかと思います。そういう意味ではそれぞれの地域として目指すべき方向性、これは、それぞれの地方でしっかり考えるべきだけれども、大きな東京の機能の分散、これは国の方ですね、地方がそれぞれ競ってどうするというのではなくて、大きな方向性を出して少子化、人口減少の大きな課題であり、そして東京にとってもこれは大きな課題であるわけですから、この方向性はしっかりと出して欲しいと、そういった働きかけをしていく必要があると思っております。

○議長（飯泉徳島県知事）

はい。ありがとうございました。

今、お話がありましたように、例えば、この税、伊原木知事さんからもお話がありましたが、ちょうど国を挙げて法人税の実効税率を下げようという話があるんですね。そこで、外形標準課税を、例えば賦課していくことによって、地方の財源をという話もある中で、やはり、東京一極集中しやすいような分割基準などの法人税、東京有利となっていたわけですが、これをこの機会に変えていくことによって「地方創生」が出来るというようなことが、どんどん進むんじゃないかと。今まで、一国二制度、ダブルスタンダードっていうのは、まかりならんと、やったとしても沖縄か奄美か北海道といわれていたんですけどね。これからは東京とそれ以外という形。おそらく、尾崎知事さんは、都市目線ではという話がありましたから、例えば、愛知県とかあるいは神奈川、大阪、ここも少し別かなというのものもあるかもしれませんが、そういった形でこの国の制度を新たに変える、今チ

チャンスじゃないかと思えます。

伊原木知事さんが仰った「地方創生相」は石破さんが大臣になられるわけですが、いよいよ今日からスタートとなるわけですから、まさに中四国で、この施策が上手くいくかいかないか、これが上手くいかなければ、先ほど申しあげたように、日本全体が上手くいくわけがないところでもありますので、このところは、緊急アピールというのは用意してなかったところではありますが、ちょうど地方創生大臣が誕生する、そしていよいよ国がそれに舵を切るんだというその日でもありますので、中四国が何も出さないということはないだろうと。

先ほど中身としては、尾崎知事さんから出た、あくまでも国は大都市目線になってしまっている、交付金を作って地方に任せるのはどうだろうか、こうなっちゃうわけですね。地方に任せるんだとなれば、自由度の高い交付金を作って、どんどん基金を作る、その地域で考えて出してきてくれと、それで施策のコンペしようではないかと、こういうのが普通のパターンなんですね。あるいは、浜田知事さんが仰ったように、大学も旧国立といわれる、今は国の国立大学法人になっておりますが、ここは縮小するんだと、例えば四国5大学、旧国立があるわけですが、これについては逆に一つでいいという話になっているんですね、そうした点を考えると、逆じゃないかということをするのは、今であろうということでもあります。先ほどの税制はまさにその象徴となる場所でもありますので、もし皆様方よろしければ、それぞれご提案がある、また四国中国それぞれの産業競争力協議会の中で、色々出したものが殆ど採用されていない、平井知事さんからもありましたので、これをとりまとめて緊急アピールとして、「地方創生」こうあるべきというものを中四国サミットから出したらどうかと思うのですが、いかがでしょうか。

（「賛成」という声）

ありがとうございます。それではこの中身につきましては、すぐに各県に投げたいと思います。中経連、それから四経連にも投げたいと思いますので、極力早くとりまとめさせて頂いて、そして今回の一連のものと一緒に持って行ければと思いますので、その点についてもお諮りをしたいと思います。

それでは緊急アピールを出すということ、ここで決しさせて頂いてよろしゅうございましょうか。

（「異議なし」という声）

ありがとうございました。それではそのように計りたいと思います。

それでは以上、予定をしておりました議案は終了となったところでございますが、報告事項が少しありますのでよろしくお願い致します。

○司会（妹尾徳島県政策創造部長）

それではお手元の資料5、「共同イベント中四国文化の集いについて」という資料をお配りしております。中四国9県では、文化交流を実施しておりまして、昨年9月には高知

県で開催されました。裏面をご覧頂ければと思いますが、本年 11 月には島根県で開催の予定となっております。内容につきましては資料のとおりでございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

○議長（飯泉徳島県知事）

この点について、皆様方ご質問などございますでしょうか。あるいはアピールとかありましたら受け付けたいと存じますが。それでは、小林副知事さん。

○小林島根県副知事

ご覧のとおりであります。11 月に松江で開催させていただきます。開催地として、しっかりアピールしていきますので、是非皆様のお越しをお待ちしております。

ありがとうございます。

○議長（飯泉徳島県知事）

はい。ありがとうございます。よろしくお願い致します。

それではよろしゅうございますか。それでは、報告事項は以上とさせていただきます。それでは最後に次期開催について、皆様方にお諮りを致したいと存じます。順番で参りますと、次は山口県となるわけではありますが、村岡知事さんいかがでしょうか。

よろしいですか。また皆様方もよろしゅうございますか。

（「異議なし」という声）

それでは、今回は山口県とさせていただきますので、ここで村岡知事さんから一言ご挨拶をよろしくお願い致します。

○村岡山口県知事

今日は初めて参加させていただきましたけれども、大変有意義な議論で新しい方向性も出て素晴らしい会議だったと思います。次回引き受けさせていただきます。しっかりと務めさせていただきますのでよろしくお願い致します。

ちなみに来年は、大河ドラマ「花燃ゆ」ということで、吉田松陰先生の妹の文が主人公であります。山口県を舞台にして大河ドラマが放映されますが、これは昭和 52 年に「花神」という、司馬遼太郎先生作の大村益次郎を描いた大河ドラマがあったのですが、それ以来 38 年ぶりに山口県を舞台にということになっております。そういったことで来年山口県が盛り上がりつつある中でお迎えができると思いますので、どうぞお楽しみにして頂きたいと思います。よろしく願います。

○議長（飯泉徳島県知事）

ありがとうございました。

それでは以上をもちまして本日の中四国サミット、会議終了とさせていただきます。皆様方からは大変タイムリーなご提言を頂いたところであります。しかも、ちょうど時が内閣改

造その日ということもあります。また、地方重視という形にもなっているところでありますので、是非、この中四国から日本全体の色々な課題、これを解決する処方箋を、そして課題解決のエリアは中四国である、このようにいわれますように、皆様と共にこれからも進めていければと思います。本日はご協力方どうもありがとうございました。心から感謝を申し上げます。

それではこの後、会場を変えまして記者会見に移りたいと存じます。

○司会（妹尾徳島県政策創造部長）

ありがとうございました。記者会見は、この会場から右側に出て頂きまして、すぐ隣の部屋となっております。よろしくお願い申し上げます。

机上にすだちくんのマスコットを置かせて頂いておりますので、記念にお持ち帰り頂ければと思います。

どうぞ最後までよろしくお願い申し上げます。

本日は、どうもありがとうございました。